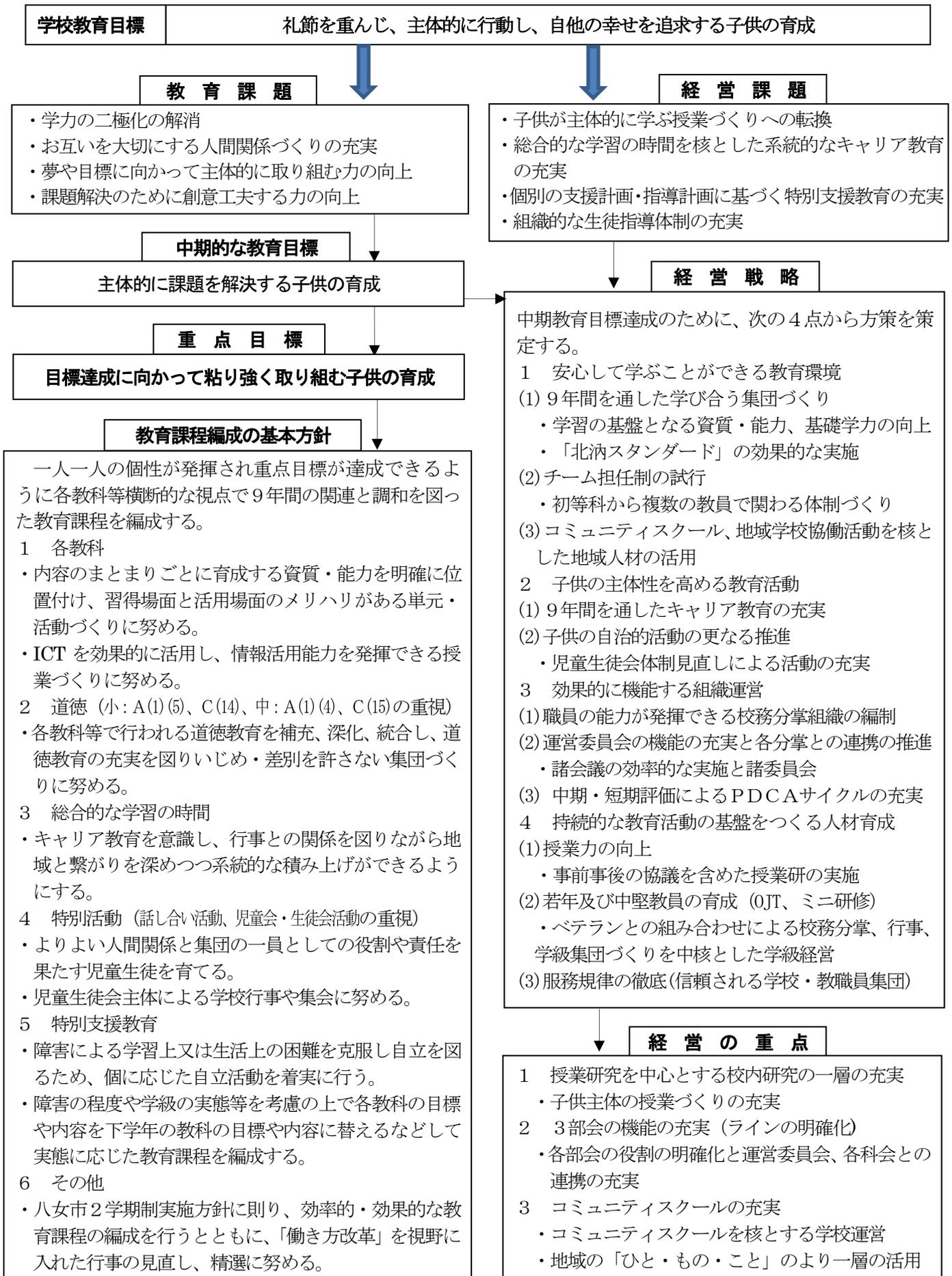


令和7年度 学校経営要綱

八女市立上陽北浜学園



一人一人の個性が発揮され重点目標が達成できるように各教科等横断的な視点で9年間の関連と調和を図った教育課程を編成する。

- 1 各教科
 - ・内容のまとまりごとに育成する資質・能力を明確に位置付け、習得場面と活用場面のメリハリがある単元・活動づくりに努める。
 - ・ICT を効果的に活用し、情報活用能力を発揮できる授業づくりに努める。
- 2 道徳 (小: A(1)(5)、C(14)、中: A(1)(4)、C(15)の重視)
 - ・各教科等で行われる道徳教育を補充、深化、統合し、道徳教育の充実を図りいじめ・差別を許さない集団づくりに努める。
- 3 総合的な学習の時間
 - ・キャリア教育を意識し、行事との関係を図りながら地域と繋がりを深めつつ系統的な積み上げができるようにする。
- 4 特別活動 (話し合い活動、児童会・生徒会活動の重視)
 - ・よりよい人間関係と集団の一員としての役割や責任を果たす児童生徒を育てる。
 - ・児童生徒会主体による学校行事や集会に努める。
- 5 特別支援教育
 - ・障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、個に応じた自立活動を着実に進行。
 - ・障害の程度や学級の実態等を考慮の上で各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えるなどして実態に応じた教育課程を編成する。
- 6 その他
 - ・八女市2学期制実施方針に則り、効率的・効果的な教育課程の編成を行うとともに、「働き方改革」を視野に入れた行事の見直し、精選に努める。

- 1 授業研究を中心とする校内研究の一層の充実
 - ・子供主体の授業づくりの充実
- 2 3部会の機能の充実 (ラインの明確化)
 - ・各部会の役割の明確化と運営委員会、各科会との連携の充実
- 3 コミュニティスクールの充実
 - ・コミュニティスクールを核とする学校運営
 - ・地域の「ひと・もの・こと」のより一層の活用

重点目標「目標達成に向かって粘り強く取り組む子供の育成」について

1 重点目標設定の理由（昨年度の成果と課題から）

昨年度は、重点目標を「自分の考えを伝え合う子どもの育成」として教育活動に取り組んだ。その成果として、ICT機器を活用し、お互いの考えについて顔を寄せて交流したり、友達の考えを参考にして自分の考えを広げたり深めたりする姿が多く見られるようになった。また、全体としても高い学力を維持した。しかし、授業においては受け身になるケースが多く、全国学調の児童・生徒質問の結果からも主体的な学びについて課題があるといえる【表1】。また、依然として学力の二極化の課題がある。学力については非認知能力の育成との相関関係が整理され、学力を下支えする非認知能力の育成が特に重要視されている。そこで、これまで育成してきた伝え合う学級集団を基盤とし、個々がわくわくして様々な活動に主体的に取り組む姿を目指す。

【表1】 令和6年度 全国学調 児童質問・生徒質問（6・9年）の結果

質問事項		本校%	県平均%
「分からないことや詳しく知りたいことがあったとき自分で学び方を考え、工夫できているか」で「できている」と回答した割合	6年	0	28.5
	9年	9.5	26.7
「5年生（8年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」で「当てはまる」と回答した割合	6年	15.0	27.1
	9年	14.3	25.9

2 本校が目指す「目標達成に向かって粘り強く取り組む子供」とは

文部科学省は主体的な学びについて、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性に関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」ことと述べている。

これを踏まえ、「目標達成に向かって粘り強く取り組む子供」を以下のように考える。

興味・関心を持って自ら目標を設定し、自己のキャリア形成の方向性に関連付けながら、目標の達成を目指して最後までやり遂げる子供

3 重点目標達成に向けて

このような子供を育てるために、以下のような取組を各教科をはじめとするあらゆる教育活動の場に位置付けて実践していく。

- 1 わくわく（達成したい目標を自分で決める、こうしたらできそうだという見通しを持つ）
- 2 きらきら（課題解決（目標達成）に向けて自分から取り組む）

目標達成に向けて粘り強く取り組むためには、まず、達成したい目標（解決したい課題）を自ら決めることが大切である。次に、どうすれば達成できそうか（解決できそうか）の見通しを持つことである。そして、個人で、あるいは仲間と共に協働して取り組むことである。このような取組を繰り返していくことで粘り強く取り組む子供が育成できると考える。つまり、重点目標達成に向けた本校の取組は、「主体的・対話的で深い学び」や「すべての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ことと一致しているものである。

令和7年度は授業等において、子供が「わくわく」「きらきら」する場面を教師が設定したり、支援したりしながら子供とともに創り出していくことで、重点目標の達成を目指す。

成果指標 授業評価アンケート（児童・生徒）の①②③⑦の項目でそれぞれ平均が3.3以上
八女市非認知能力に関するアンケートの質問（質問⑧、⑬）でR6を上回る